

## 開 会 挨拶

日本家庭科教育学会会長 赤塚 朋子

日本家庭科教育学会会員の皆様、コロナ禍の困難な中、家庭科研究の発展のためにご尽力なさっていらっしゃるのと拝察申し上げます。

日本家庭科教育学会 2021 年度第 64 回大会を昨年に引き続き、オンラインにて開催いたします。大会開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今大会は、岡田みゆき実行委員長を中心に、2 年越しで北海道地区会の実行委員会と理事会が協力して開催する初めての形となりました。北海道でお会いしているかのように、家庭科教育に関する研究への活発な議論がなされることを祈念いたします。

ここで、今大会にご参加くださいます、ご来賓の皆様をご紹介します。一般社団法人日本家政学会会長 香西みどり様、一般社団法人日本調理科学会会長 綾部園子様、一般社団法人日本保育学会会長 秋田喜代美様、全国家庭科教育協会会長 河野公子様。また、本学会名誉会員でいらっしゃる佐藤文子先生、内藤道子先生、中間美砂子先生、牧野カツコ先生です。ご参加をありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。

昨年度と同様、先行き不透明なこうした状況下だからこそ、生命と生活そのものを題材としている家庭科教育に関する研究を増強することを目的としている本学会が大会を開催することで、会員の皆様の研究発表の場を保障することと家庭科教育の最新の研究課題の共有を重点課題として、バージョンアップして開催するために努力を重ねてまいりました。この間の関係各位のご尽力に心から感謝申し上げます。

会員の研究発表においては、会員の皆様の研究成果をいかにリスクから守る点から、安全で安心した研究発表環境の構築に対する専門的なバックアップを準備しました。また、昨年度の大会における会員からのご意見を反映して、研究発表当日は発表者が PC 上にプレゼンテーション資料（パワーポイント等）を開き、ご本人が Zoom で画面共有し操作をしながら発表をするスタイルとなりました。

シンポジウムでは、「家庭科温故知新～SDGs を通して考える未来につなぐ家庭科教育」をテーマとして、講師の佐藤真久氏（東京都市大学大学院教授）ならびにシンポジストの柿野成美氏（消費者支援センター専務理事・首席主任研究員）、大西康史氏（釧路町立昆布森小学校教頭）、石島恵美子氏（茨城大学准教授）の皆様には、こちらも 2 年越しとなりますが、本学会のためにお時間を確保していただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。コーディネーターは、井元りえ氏（女子栄養大学教授）となります。SDGs と家庭科に関するテーマは、会員の皆様からの希望が大変多く、今回のテーマでの講演・シンポジウムが実現されることの喜びと期待が高まっていることと思います。

また、北海道地区会でご準備いただいたラウンドテーブルは、本学会の特徴である実践から家庭科教育のあり方を問い直すことを大事にしてきた位置づけの時間です。今大会で開催できることを嬉しく思いますとともに、大会での地区会の出番として、今後に繋げていきたいと思っています。テーマは「家庭科における SDGs をふまえた授業づくり」です。報告者として、秋山玲奈氏（北海道教育大学附属旭川小学校教諭）、奈良英代氏（藤女子中学校・高等学校教諭）、山本ひろみ氏（北海道立幕別高等学校教諭）、コーディネーターの鎌田浩子氏（北海道教育大学釧路校教授）に感謝いたします。

以上、研究への刺激を思う存分受け止めていただけましたら幸いです。今大会が皆様の今後の研究発展への一助になりますことを祈念して、開会挨拶とさせていただきます。

## 実行委員会挨拶

第 64 回大会実行委員長 岡田みゆき

日本家庭科教育学会第 64 回大会にあたり、実行委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。日本家庭科教育学会第 64 回大会は、本来であれば、北海道教育大学旭川校を会場に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のために、皆様をお迎えすることができなかったことをとても残念に思っております。しかしながら、赤塚朋子会長をはじめ理事の皆様の全面的なご支援のもと、オンラインで開催させていただくことになり、心より感謝申し上げます。また、大会参加者も 245 名とお聞きし、大変ありがたく思っております。

世界的パンデミックから 1 年以上経過した今でも、未だ国や地域の自由な往来がいつからできるのか、先の見通しが難しい状況が続いております。そして、ウイルスが私たちの身体と経済を打ちのめし、多くの人々が計り知れない悲惨さと苦しみを味わっております。コロナ禍を通して、貧困による教育格差や男女の雇用格差など多くの問題が顕在化し、特に女性への影響は深刻です。しかし一方で、コロナ禍により私たちは、生き方のほとんどすべての側面に対して再考を余儀なくされたからこそ、本大会のテーマでもある持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するための大きな機会とも考えられます。SDGs は人類が歩むべき道のみを示しています。達成できれば、すべての人に安定した豊かな生活をもたらすことができます。そして、SDGs の視点は、今後の家庭科教育にとっても重要なものになると思われま

今回、実行委員会企画のラウンドテーブルでは、小学校・中学校・高等学校における SDGs の視点を取り入れた授業づくりについてご提案いたします。小学校では、目標 12 と目標 14 と関わらせながら、プラスチックごみを減らすためのマイバッグ製作の実践をご報告します。中学校では、目標 7、目標 9、目標 11、目標 13 と関連させながら、電力量、照度、生ごみ等の計測（「はかる」）を通して、環境に配慮したライフスタイルを確立する基礎を培う実践をご報告します。高等学校では、目標 10、目標 11、目標 17 と主に関連させながら、地域の人々の困りごとに寄り添い、その人たちのために、自分たちで製作したユニバーサルデザインの Y シャツの取組についてご報告します。協議の場では、SDGs の視点を取り入れた授業づくりについて私どもと共に考えていただければ幸いです。どうか、忌憚のないご意見、ご提案をお願い申し上げます。皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。実行委員会からの開会の挨拶とさせていただきます。